

# 言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (府中市立上下北小学校)

- ① 教科等 算数科    ② 学年 第3学年
- ③ 単元名 あまりのあるわり算
- ④ 本時の目標 問題場面の意味を理解し、あまりの処理の仕方考えることができる。
- ⑤ 学習の流れ (5時間目/全7時間)

学習活動	指導上の留意点	評価規準〔観点〕 (評価方法)
<p>1 問題文を読み、問題場面を把握する。</p> <p>子ども達30人が、えい画館に行きました。1きゃくの長いすに4人ずつすわります。全員がすわってえい画を見るには、長いすは何きゃくいりますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題場面の絵を掲示し、視覚的に問題を把握させる。</li> <li>・今までの問題と違うところ(答えにあまりをかく問題になっていない)に気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題場面の意味を理解し、ブロック操作をしたり、図に表したりしてあまりを1つ分として考えている。</li> </ul> <p>[数学的な考え方] (ノート)</p>
<p>2 めあてをつかむ。</p> <p>あまりをどのようにすればよいか考えよう。</p>		
<p>3 見通しを立てる。</p> <p>4 自力解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ブロックで考える。</li> <li>②絵や図で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまりの2をどうするのか図にかきこませたり、式を書いたりさせる。</li> </ul>	
<p>5 考え方を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアトークで友達に説明をする。</li> <li>○ 全体で考えを深め合う。</li> <ul style="list-style-type: none"> <li>①あまりの2人を1つ分としない考え方</li> <li>②あまりの2人を1つ分とする考え方</li> </ul> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図や式を考えて書き、指し示しながら、具体的に説明させる。</li> <li>・2つの考え方を比較検討させる。</li> </ul> <p>例：私は、ブロックで考えました。 私は、図で考えました。 ここに、「全員がすわるには」と書いてありますね。のこった2人がすわるのに長いすがもう1きゃくいります。だから、ぜんぶで8きゃくです。</p>	
<p>6 まとめをする。</p> <p>あまりを1つ分として考えて1をたす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図と式を照らし合わせながら、児童のことばでまとめをする。</li> </ul>	
<p>7 練習問題をする。</p> <p>8 振り返りをする。</p>		

【言語活動の充実】

設定した言語活動を通して育てたい力

- わり切れない場合のあまりの処理の仕方について考えることができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- あまりの意味や答えの求め方をおさえるために、九九を使ったりブロックを操作させたり、図にかかせたりする。
- 意欲的に学習させるために、日常の生活場面での問題を設定し、課題に必然性・必要感をもたせる。
- 分かりやすく説明させるために、図に数字や言葉を書きこませたり、ペアトークで説明し合ったりさせる。